

多様性を尊重する社会づくりのためのアンケート調査結果

【アンケートの目的】

与謝野町の現状と課題を把握して必要な取組に反映させるため

【実施方法】

町内在住の 15 才以上の方から 2,000 人の方を無作為で抽出

【回答状況】

回答数 681 件（インターネット回答 135 件含む）

◇年齢

15～19歳-2.1%、 20～29歳-4.0%、 30～39歳-8.4%
40～49歳-11.4%、 50～59歳-18.0%、 60～69歳-22.6%
70歳以上-35.4%、 無回答-0.1%

年齢構成は令和2年度国勢調査における年齢構成とほぼ類似しており、統計的に見て町民の意見を反映した有効度の高い結果と言える。

ただし、15から19歳、20から29歳の回答者実数が少ないため、全体におけるこの年代別の回答割合は有効とは言えない。

◇性別

男性48%、女性51%、答えない1%、その他は0

◇差別や偏見の有無

「ある」と60%が回答

実際に身の回りで差別や偏見を感じることは、年代によって結果に違いがあり、高齢になるほど「ない」「感じない」が多い。

中でも障害者や子どもに対する差別・偏見を感じる方が多く、障害者に対する誹謗中傷、子どもに対するいじめがあると感じる方が多い。

◇町が取り組むべきこと

学校における教育、相談窓口の整備が必要との回答が多い。

◇性的マイノリティに対し差別や偏見のない社会を実現するために必要なこと

（上位3つ）

1. 気持ちや情報を共有できる居場所づくり
2. 教育現場での啓発活動の実施
3. 専門相談体制の構築

◆自由意見◆（抜粋）

【差別や偏見】

10代～20代	女性	「高齢者は全員老害だ」「中国人はマナーが悪いから日本に来るな」のような過剰な一般化が多く見られる。
30代～40代	男性	出身地や出生、家庭環境・セクハラ、モラハラ、高圧的な態度、威嚇
30代～40代	女性	幼い子は男女や外国人という偏見は無い。そういう風に思い込ませるのは大人だと思う。集団生活の中で”男の子””女の子”と分ける必要はない。教育現場での先生の発言も大きな要因になりうると思う。大人の発言や行動で差別や偏見が生まれていくと思う。必要以上の啓発活動もよけいに差別や偏見を生む。”差別””偏見”という言葉こそが、差別や偏見につながると思う。古い考えを変えていくほうに力を入れるべき。
30代～40代	女性	病気、発達障害
30代～40代	女性	バカにする
50代～60代	男性	高齢者とか女性という事で区別され社会の偏見が根強く残っている
50代～60代	女性	職歴、学歴、家柄、犯罪歴
50代～60代	男性	児童に対する虐待、異性へのセクハラ、職場や年齢などの上下関係におけるパワハラ、児童虐待、カスタマーハラスメント
50代～60代	男性	全ては男女平等とは限界が有り、それを差別だ・偏見だと言うはおかしな事と思う。
70代以上	女性	寡婦に対して誹謗中傷。未だ男尊女卑の風潮が感じられる。田舎ゆえ、女性に対し下という意識が強いと思う。
70代以上	男性	障害者に対する偏見、アジア人に対する嫌がらせなど

【理解する・自分事として考える】

30代～40代	女性	男女差別は高齢の方より若い子の方が柔軟に受け入れている様に思います。他の事に関しても知らない事が差別の目になってしまっているところがあると思います。ちゃんと知る事で不安が少しやわらいだり受け入れられたりするんじゃないかなあと。もっとオープンにしやすい環境になればいいです。差別を受ける側のサポートも大事ですが、差別の目で見ってしまう人を減らす方が大事だと思います。
50代～60代	女性	正しく知ることからお互いの理解が始まると思えそのような機会を積み重ねることが大切だと思います。
50代～60代	男性	この話題について、無関係の人はいないので、一人一人が考える必要があると思います。
70代以上	女性	知っているつもり、理解しているつもりでも、間違っているかも知れない。正しい知識を持つ事は大事だと思います。

【考えたことがない】

50代～60代	女性	自分の周りには性的マイノリティの人がいないので、自分事としてはあまり考えられません
70代以上	男性	性に関する問題等、考えもしなかった。
70代以上	女性	テレビ等で話題になっているが廻りで見かけないのでそんなに考えた事がない。

【行政に対し】

30代～40代	女性	なかなか自分が住んでいる地域から出なかったり情報がなかったり、情報があっても自分ごととしない限りは、偏見は無くならないように思う。情報を伝え続けることや、実際にその状況になった時にどんな行動をするかは、知識があるかないかで大きく変わるように思うからこそ、正しい情報の提供と、正しい認識を持つ人を1人でも多く増やしていく必要がある。都会とは違い閉鎖的な田舎だからこそ、当事者に会うことも少なく自分ごとになりづらいし、カミングアウトまでできる環境だと言えないのではないかなと思う。
30代～40代	男性	こうしたアンケートを取るということ自体が当町においては画期的なので、多くの人に協力してもらいたいと思った。一方で、毎回思うが、アンケートを取って終わりではなく、むしろこのアンケートを取るということは積極的に町は取り組むという姿勢だと感じるので、町長が陣頭指揮をとって取り組んでいただきたいと思っている。一番に専門部署はあっていいかなと思うが、住民税務課人権推進係でもって今後この分野に取り組んでいけるのか気がかりに思う。
30代～40代	男性	多様性や新しい価値観に関する施策は是非継続してほしいと思います。どうしても高齢の方はそういった新しい考え方を自身の中でアップデートしにくいでしょうし、長く生きてこられた経験則もあるので一定程度仕方ないとは思いますが。それでも時代は常に変化しており、それを理解できない地域は成長しないと思います。少なくとも若者は定着しません。継続した取り組みで、地域全体で考えていくべきだと思います。
50代～60代	女性	性的マイノリティにかかわらず「生きづらい」と感じる人が「生きやすい」と感じられるようにする、社会にする責務は行政にあると思いますので、その人々に寄り添える施策を考え実施してほしいと思いました。
50代～60代	女性	国がLGBT法を施行したから各自治体でもという成り行きでしょうか。でもそもそも今の憲法や教育基本法がしっかり自覚され守られていたら全ての事につながります。障害者も高齢者も女性も…。部分的になんとかしよう（お上から）言われたからなんとかしようというすすめ方では解決しないと思っています。
50代～60代	女性	地道に啓発していくことが大切であると思います。すぐには考えは変わらないと思いますから。
70代以上	男性	行政が多様性についてのアンケートをする時代になったんだと昔と比べた変化・変様を感じた。区長や組長、教育関係の長など男性中心なままの与謝野町では発展がみこめないように思う。
70代以上	男性	このアンケートについて教えてください。このアンケートは性的少数者を多く作ろうと言うのか、それともそういう人が近所に居たら温かな目で見守ろうと言うのか、もし居たらどのようななかかわりをすれば良いのか？

【教育・研修】

30代～40代	女性	LGBTQや性的マイノリティの有無に関わらず、多様性という事自体が当たり前のことであり、「個」を尊重できる社会になるには、やはり意識を持つことがまず第一で、そのためにはやはり「教育」が欠かせないと思います。
50代～60代	女性	社会全体の考え方、基本はやはり「教育」なのではないでしょうか。親から子どももちろんですが、その「家」の考え方や自分自身「親から聞いた聞かされた～」etc、そういう中で学習する事、してきた事は「性」の問題に限らず大切な事だと思います。その一環を担うのが行政で広報活動や専門機関への橋渡し又、学ぶ場所（講演会）などを設け広くこのことが「あたりまえ」となる暮らしが根強く、そのような社会が実現出来れば子どもの頃からどんな人や環境の中でも生きていく事が可能になるとアンケートを書いて思いました。
50代～60代	男性	すべての差別において幼少期における家庭内（親）の教育の割合が大きいと思います。親によるすり込みの様な事があると子供は信じてしまい、大人になってもよほどの事がないと変わらないと思います。
50代～60代	男性	弱い立場の人の気持ちがわからない、社会的地位の高い方への研修が必要と考えます。
70代以上	男性	教育現場では性の学習でLGBTQなど多様性について学ぶ機会が昔よりも増えていると思うので、そういった考え方にふれる機械を増やしていくことが多様性の理解にもつながるのではないかと思います

【その他の意見】

30代～40代	女性	近年、性的マイノリティ理解への取り組みはもう十分行われている。言葉に当てはめるより、自由を認めることが重要。 私は女性ですが、今後もスポーツや温泉、トイレ使用など身体的なことについては、身体的な性別で分別を強く希望する。
50代～60代	女性	オープンにしても何も気にならない社会になればいいと思います。いじめをする人こそ差別されるに値する、とも思います。ですが、手厚くしすぎるのはまた違うともおもっています。正しい知識を持ち、同じ社会で生きる人として認めること、庇うのではなく、自立を妨げないことができるように、対応面も学び、一緒に暮らす必要があります。保護するのではなく、認めること。社会的発達段階を営めるようにすること、子供、高齢者、障害者へのいじめと、性的マイノリティや、国籍によるいじめは種類が若干違う気もしています。そこを履き違えることなく受け入れて、よりその人に対して良い方向へ導けるようにする必要があると思います。弱者と強者にならないように。強者は心の中で差別してる人がいるような気がします。これは、私の偏見かもしれませんが。
50代～60代	男性	差別や偏見のない社会の実現よりも、差別や偏見がある前提でどのように支援するか対策をすべき。差別や偏見はどんな人物についてもなくなる事はない（無意識に区別し自分の見方で相手を見てしまう）ので、なくすのではなく救いを求める人を救済すべきと思う。
50代～60代	女性	男の子、女の子の大人からの考え方は、生まれた子どもに性別を区別した名前をつける時から始まり、赤ちゃんの時から育てる中で伝えてしまっているのかなと思うので、赤ちゃんからの区別をなくすように意識している（してほしい）
70代以上	女性	誰しものが自然体で自由に生きる権利を尊重したい。偏見のない地域社会を確立してほしい。その為にはまず自分から（遅くはない）意識改革をはかっていきたい。良い機会を得たと感謝しております。ありがとうございました。
70代以上	女性	見て見ぬふりは出来ないと思いますが、あまり考えすぎてもいけないと思います。自然体で過ごせるように廻りの人が気を付けていったら良いと思います。難しい問題だと思います。
70代以上	男性	近年ニュース等、情報発信されることが多くなっているので少しずつですが理解出来つつあります。自分の年齢的にもこれまで男、女と分けられた（区別された）生活や教育を受けてきたので、なかなか受け止めにくいこともありますが、一人一人が幸せに生きるため個々の特性は認めていくべきだと思います。地域のいろいろな組織や行政の現状が、男性優位であることに違和感を感じています。
70代以上	女性	性的マイノリティの人達は何故そうなるのか分からないが、男女が全く同じではないし、それぞれの性が与えられている能力も有ると思う。結婚は男女がするものであって同性が結婚する事は無理だと思える。同性で住んでいるのは問題ないが、男性の姿のまま女性専用の場所（銭湯とか）に入れる様にするのはいかなものかと思う。国籍が違う事を偏見や差別する事は有ってはならない。只、地方の文化に溶け込もうとする努力は有っても良いのでは？ その手助けをする為に行政が動くのは良いが、地方の文化を壊す様な自分勝手な行動は許されないと考える。